

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 富山県 | 市町村名 | 高岡市 | 地区名 | 福岡中央地区(第3期) | 面積 | 39ha | | | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|--------------|--|---------|---|-------------|------------|---------------|---|---|--|
| 交付期間 | 平成31年度～令和5年度 | 事後評価実施時期 | 令和5年度 | 交付対象事業費 | 935百万円 国費率 0.49 | | | | | | | | |
| 1)事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 基幹事業 道路[区画道路整備事業]、公園[菫川1・2号公園等整備事業]、地域生活基盤施設[緑地等整備事業、福岡駅前自転車駐車場整備事業、まちなかサイン設置事業]、高質空間形成施設[旧北陸街道(都)中央線整備事業、菫川プロムナード整備事業、福岡駅前地区周辺整備事業]、高次都市施設[地域交流センター整備事業] 提案事業 地域創造支援事業[菫川2号公園付帯施設整備事業、公営バス車庫移転事業]、事業活用調査[事後評価分析]、まちづくり活動推進事業[福岡まち歩きマップ作成事業、福岡歴史街道散策体験教室事業、福岡歴史街道「管」に触れる製作体験教室事業、まちなかオープンカフェ事業、まちなかの宝探しウォークラリー事業、まちなか交流空間活用事業(青空ヨガ体験等)] | | | | | 事業名 | | 削除/追加の理由 | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 基幹事業 なし | | - | | - | | - | | - | | |
| | 提案事業 | | ①地域創造支援事業[公営バス車庫移転事業] ②まちづくり活動推進事業[福岡まち歩きマップ作成事業] ③まちづくり活動推進事業[まちなかオープンカフェ事業] ④まちづくり活動推進事業[まちなか交流空間活用事業(青空ヨガ体験等)] | | ①区域内で実施している関連事業「福岡駅前土地区画整理事業計画(H19～R2)」の計画内容の変更に伴い、事業を削除。 ②③④事業内容の見直し(まちづくり活動推進事業6事業のうち3事業を削除し、残る3事業に注力することで福岡中央地区が有する歴史・文化の価値を高める)に伴い、事業を削除。 | | ①指標への影響は、他事業に比べて小さいことから指標の変更は行わない。 ②③④事業参加者数は計画変更前と変更ないため指標の変更は行わない。 | | | | | | |
| | 新たに追加した事業 | | 基幹事業 なし | | - | | - | | - | | - | | |
| | 提案事業 | | 地域創造支援事業[(都)中央線 旧北陸街道電柱修景整備事業] | | 基幹事業「高質空間形成(都)中央線 旧北陸街道電柱修景整備事業」内の電柱の修景整備を提案事業で実施するため。 | | 基幹事業の一部を提案事業に変更した事業であるため指標の変更は行わない。 | | | | | | |
| | 交付期間の変更 | | 当初 | 平成31年度～令和5年度 | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | - | | | | | | |
| | | 変更 | - | | | | | | | | | | |
| 2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 数値 | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | | |
| | 指標1 | 地区内の人口密度 | 人/ha | 30.0 | H27 | 30.0 | R5 | モニタリング 27.7 | × | あり ● なし | 評価値は目標に達せず、2期計画期間中(H26～H30)からの改善も見られない状況であり、さらに高岡市全体や福岡市の動向と比較しても改善の傾向は見られず、人口減少の流れに歯止めがかかっていない。 一方で、本地区内では、平成19年から進めている土地区画整理事業により、人々の暮らしを支える都市基盤がようやく整ってきた段階にあることから、引き続き、居住支援など移住・定住のための施策に取り組んでいく必要があると考えられる。 | 令和6年4月 | |
| | 指標2 | 住民満足度 | % | 48 | H30 | 58 | R5 | 65.3 | ○ | あり ● なし | 土地区画整理事業による道路や公園等の整備に加え、駅前広場や福岡にぎわい交流館多目的広場の整備が目に見える形で表れてきたことにより、評価が高まったと考えられる。 また、福岡にぎわい交流館で指定管理者制度を導入し地域の交流拠点として積極的に活用されていることや、提案事業(福岡歴史街道事業)のイベントを開催したことにより、活気やにぎわいに対する評価が高まったと考えられる。 | - | |
| | 指標3 | 文化交流施設の入館者数 | 人/年 | 125,365 | H29 | 140,000 | R5 | 123,781 | × | あり ● なし | 入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少し、その後徐々に回復しているものの、未だ回復しきっていないことが目標未達成の大きな要因と考えられる。 一方で、福岡にぎわい交流館は、提案事業(福岡歴史街道事業)で活用したこと、令和4年度から福岡町づくりもまづりが再び開催されたこと、そのほか、様々なイベントが開催されたことにより、入館者数は大きく回復が見られる。 | 令和6年4月 | |
| 3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 数値 | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | | |
| その他の数値指標1 | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| 4)定性的な効果発現状況 | <ul style="list-style-type: none"> 駅前線など土地区画整理事業区域内の道路の整備により、安全性、快適性、利便性が向上した。 旧北陸街道は、沿道の歴史的な街並みと調和した道路の修景化によって、景観価値を高めた。 菫川1号公園や2号街区公園を整備し、駅前や中心市街地に潤い・憩いの空間が形成された。 | | | | | | | | | | | | |
| 5)実施過程の評価 | 実施内容 | | 実施状況 | | | | | | | | | 今後の対応方針等 | |
| | モニタリング | - | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | | - | |
| | 官民連携による取組 | 市が主体となり実施した提案事業の福岡歴史街道事業では、地域のまちづくり会社や活動団体と連携したイベントを開催し、市内外から延べ700人以上の方が参加した。 | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | | ● 民間企業や市民活動団体などが主体となって実施する地域活性化に係る取組を支援する。 | |
| 持続的なまちづくり体制の構築 | 株ウエルカム福岡は商工会、市民団体及び行政等と連携しながら、福岡町を中心に、にぎわいと活性化に繋がる事業の企画・運営を行っているまちづくり会社である。また、都市再生整備計画事業においても本市と連携しながら、まちづくりに関する様々な活動を継続的に展開している。 | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | | ● 人々の交流を促し、地域の活気やにぎわいを創出するため、歴史・文化資産を活かしたイベントなどを継続的に開催する。 | | |